

第20 交通事故事件捜査

1 交通特殊事件

交通事故を偽装した保険金詐欺事件、運転免許証の不正取得事件、文書の偽変造事件及び事業活動から派生する自動車の使用者の義務違反事件等交通社会に潜在する悪質知能犯罪の検挙を重点とした捜査を推進した。

その結果は、次表のとおりである。

(1) 交通特殊事件等の検挙状況

罪種別	平成30年
交通保険金詐欺事件	2件（計約1,038万円）
自動車の使用者の義務違反事件	12件
犯人隠避事件	23件
文書偽(変)造事件	15件
その他	390件
計	442件

※その他(道路交通法違反教唆等事件・運転免許証不正取得事件など)

(2) 主要事件の検挙事例

○ 詐欺グループと整骨院院長が結託した自動車保険金詐欺事件

所属	直方署、飯塚署、嘉麻署、交通捜査課
事件の概要	筑豊地区の詐欺グループが偽装交通事故を作出するとともに、整骨院院長と結託して自動車保険金約1,038万円をだまし取る等した2件の保険金詐欺事件を検挙した。
罪名等	詐欺
被疑者数等	被疑者 8人

○ 中国人向け配車アプリを使用した道路運送法違反(白タク)事件

所属	空港署、交通機動隊、交通指導課、交通捜査課
事件の概要	中国人向け配車アプリにドライバーとして登録していた元中国国籍の被疑者が、同配車アプリを利用して運送契約を交した中国人ら訪日旅行者の需要に応じて、九州一円を自家用車で複数回にわたり有償運送したことにより、無許可で一般旅客自動車運送事業を営んだ道路運送法違反事件として検挙した。
罪名等	道路運送法違反(無許可一般旅客自動車運送事業経営)
被疑者数等	被疑者 1人

第20 交通事故事件捜査

2 ひき逃げ・不申告事件

注1 「ひき逃げ事件」とは、道路交通法第72条第1項前段の救護措置義務違反に係る交通事故をいう。

注2 「不申告事件」とは、道路交通法第72条第1項後段の報告義務違反に係る交通事故をいう。

(1) ひき逃げ・不申告事件発生・検挙状況等の年別推移

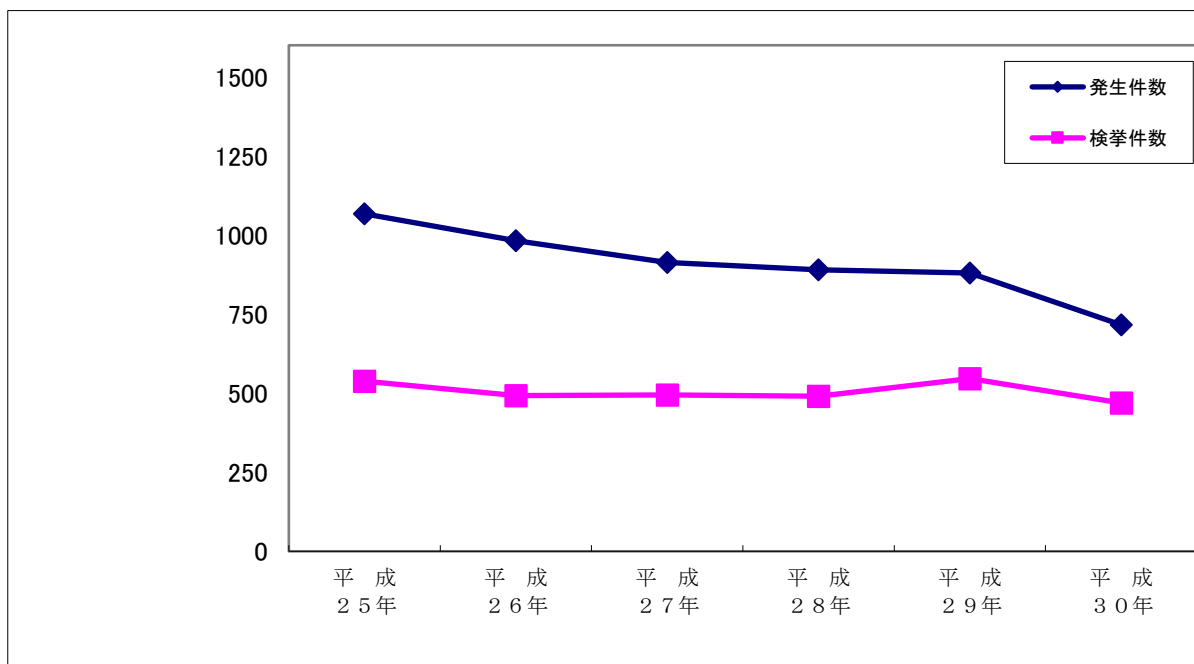
区 分	発生件数(件)			死亡ひき逃げ件数(件)			検挙件数(件)		
		対全 事故 比率	指 数		対全 死 亡 事 故	指 数		検 挙 率	指 数
平成元年	1,216 (400)	3.4%	100	16	4.3%	100	1,062 (246)	87.3% (61.5%)	100
2年	1,032 (349)	3.1%	85	21	5.4%	131	882 (199)	85.5% (57.0%)	83
3年	1,025 (376)	3.0%	84	15	4.0%	94	879 (230)	85.8% (61.2%)	83
4年	900 (415)	2.5%	74	18	4.8%	113	729 (268)	81.0% (64.6%)	69
5年	734 (401)	2.0%	60	14	4.2%	88	533 (220)	72.6% (54.9%)	50
6年	727 (408)	1.9%	60	24	6.2%	150	521 (235)	71.7% (57.6%)	49
7年	675 (358)	1.7%	56	18	4.8%	113	488 (202)	72.3% (56.4%)	46
8年	803 (476)	1.9%	66	23	6.6%	144	474 (217)	59.0% (45.6%)	45
9年	877 (532)	1.9%	72	17	5.1%	106	494 (215)	56.3% (40.4%)	47
10年	1,073 (686)	2.2%	88	18	5.6%	113	500 (239)	46.6% (34.8%)	47
11年	895 (490)	1.8%	74	16	5.2%	100	481 (206)	53.7% (42.0%)	45
12年	976 (492)	1.9%	80	12	4.1%	75	532 (216)	54.5% (43.9%)	50
13年	942 (482)	1.9%	77	15	4.7%	94	508 (162)	53.9% (33.6%)	48
14年	951 (576)	1.9%	78	15	4.9%	94	544 (229)	57.2% (39.8%)	51
15年	1,493 (997)	2.9%	123	13	4.3%	81	587 (292)	39.3% (29.3%)	55
16年	1,694 (1,155)	3.3%	139	12	5.0%	75	544 (269)	32.1% (23.3%)	51
17年	1,976 (1,251)	3.8%	163	11	4.6%	69	691 (372)	35.0% (29.7%)	65
18年	1,860 (1,095)	3.7%	153	14	6.0%	88	741 (348)	39.8% (31.8%)	70
19年	1,427 (677)	3.1%	117	11	5.6%	69	697 (237)	48.8% (35.0%)	66
20年	1,479 (564)	3.3%	122	5	2.6%	31	756 (197)	51.1% (34.9%)	71
21年	1,267 (320)	2.9%	104	7	3.7%	44	595 (129)	47.0% (40.3%)	56
22年	1,151 (292)	2.6%	95	6	3.7%	38	589 (123)	51.2% (42.1%)	55
23年	1,153 (258)	2.7%	95	3	2.0%	19	548 (117)	47.5% (45.3%)	52
24年	1,068 (240)	2.5%	88	5	3.0%	31	489 (121)	45.8% (50.4%)	46
25年	1,067 (241)	2.4%	88	6	2.5%	38	538 (150)	50.4% (62.2%)	51
26年	982 (186)	2.4%	81	0	0.0%	0	492 (103)	50.1% (55.4%)	46
27年	913 (312)	2.3%	75	5	3.4%	31	494 (160)	54.1% (51.3%)	47
28年	890 (350)	2.4%	73	6	4.4%	38	490 (175)	55.1% (50.0%)	46
29年	880 (326)	2.5%	72	5	3.6%	31	546 (193)	62.0% (59.2%)	51
30年	716 (255)	2.3%	59	8	6.0%	50	469 (178)	65.5% (69.8%)	44

(※1) 表中の()内は、「ひき逃げ事件」を内数で表す。

(※2) 「指数」は、平成元年の各件数を100とする。

第20 交通事故事件捜査

(2) 過去5年のひき逃げ・不申告事件発生・検挙状況



区 分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
発生件数	1,067	982	913	890	880	716
	(241)	(186)	(312)	(350)	(326)	(255)
	指数	100	92	86	83	82
死亡ひき逃げ件数	6	0	5	6	5	8
対全事故比率	2.4%	2.4%	2.3%	2.4%	2.5%	2.3%
検挙件数	538	492	494	490	546	469
	(150)	(103)	(160)	(175)	(193)	(178)
検挙率	50.4%	50.1%	54.1%	55.1%	62.0%	65.5%
	(62.2%)	(55.4%)	(51.3%)	(50.0%)	(59.2%)	(69.8%)

(※1) 表中の()内は、「ひき逃げ事件」を内数で表す。

(※2) 「指数」は、平成25年の各件数を100とする。

第20 交通事故事件捜査

(3) 平成30年中のひき逃げ・不申告事件

ア ひき逃げ・不申告事件の発生・検挙状況

ひき逃げ・不申告事件の発生件数は716件で、前年に比べ164件(18.6%)減少した。検挙件数は469件で、検挙率は、65.5%と前年に比べ3.5ポイント増加した。

○ 平成30年中のひき逃げ・不申告事件の発生・検挙状況

区 分	発生件数	検挙件数	検挙率
死 亡 事 故	9 (8)	8 (8)	88.9% (100.0%)
重 傷 事 故	26 (20)	21 (15)	80.8% (75.0%)
軽 傷 事 故	681 (227)	440 (155)	64.6% (68.3%)
合 計	716 (255)	469 (178)	65.5% (69.8%)

(※) 表中の()内は、「ひき逃げ事件」を内数で表す。

○ ひき逃げ・不申告事件の前年比

区 分	発 生			検 挙			
	30年	前年比	増減率	30年	検挙率	前年比 (ポイント)	
ひ き 逃 げ	死 亡	8	+3	+60.0%	8	100.0%	±0.0
	重 傷	20	-2	-9.1%	15	75.0%	-6.8
	軽 傷	227	-72	-24.1%	155	68.3%	+11.4
	計	255	-71	-21.8%	178	69.8%	+10.6
不 申 告	死 亡	1	+1	--	0	0.0%	--
	重 傷	6	-5	-45.5%	6	100.0%	+27.3
	軽 傷	454	-89	-16.4%	285	62.8%	-0.8
	計	461	-93	-16.8%	291	63.1%	-0.6
合 計	死 亡	9	+4	+80.0%	8	88.9%	-11.1
	重 傷	26	-7	-21.2%	21	80.8%	+2.0
	軽 傷	681	-161	-19.1%	440	64.6%	+3.4
	計	716	-164	-18.6%	469	65.5%	+3.5

第20 交通事故事件捜査

イ 平成30年中のひき逃げ事件

注 構成率については四捨五入のため、各項目の合計は必ずしも100%とは限らない。

(ア) ひき逃げ事件の発生状況

○ 時間別発生状況

区 分	午 前						午 後						計	
	00～02時	02～04時	04～06時	06～08時	08～10時	10～12時	12～14時	14～16時	16～18時	18～20時	20～22時	22～24時		
発生件数														
合 計	10	8	12	30	25	15	19	22	30	34	27	23	255	
構 成 率	3.9%	3.1%	4.7%	11.8%	9.8%	5.9%	7.5%	8.6%	11.8%	13.3%	10.6%	9.0%	100.0%	
内 訳	死 亡	1	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	2	8
	重 傷	1	2	1	3	0	2	1	4	2	2	1	1	20
	軽 傷	8	6	9	25	25	13	18	18	28	31	26	20	227

(イ) ひき逃げ事件検挙の端緒等

ひき逃げ事件検挙の端緒は、「追跡・検問・職質」などの警察活動によるものが73件(41.0%)、「目撃者の通報」などの民間協力によるものが105件(59.0%)であった。

ひき逃げ事件の逃走動機は、「事故を起こしたことに半信半疑であった」「被害程度が大したことはないと思った」「飲酒運転中であった」「事故を起こしたことが恐ろしくなった」の順であった。

○ 検挙の端緒別状況

端緒別 区分	警 察 活 動						民 間 協 力						合 計
	追跡・検問・職質	聞き込み	検索	現場の遺留品等	その他	小計	目撃者の通報	目撃者等の追跡	被害者等の申告	その他	小計		
件 数	13	11	23	7	19	73	57	11	35	2	105	178	
構 成 率	7.3%	6.2%	12.9%	3.9%	10.7%	41.0%	32.0%	6.2%	19.7%	1.1%	59.0%	100.0%	

(※) 警察活動の「その他」とは、防犯カメラ映像解析など、民間協力の「その他」とは防犯カメラ映像の提供など。

○ ひき逃げ事件の逃走動機

・事故を起こしたことに半信半疑であった	13.5%
・被害程度が大したことはないと思った	11.2%
・飲酒運転中であった	10.7%
・事故を起こしたことが恐ろしくなった	9.6%
・無免許運転中であった	9.0%
・ひき逃げの事実を否認	8.4%
・その他	37.6%

(※) 「その他」とは、逃げてしまえば分からないと思った、事故の原因が相手にあると思った、刑事処分又は行政処分を恐れたなど。